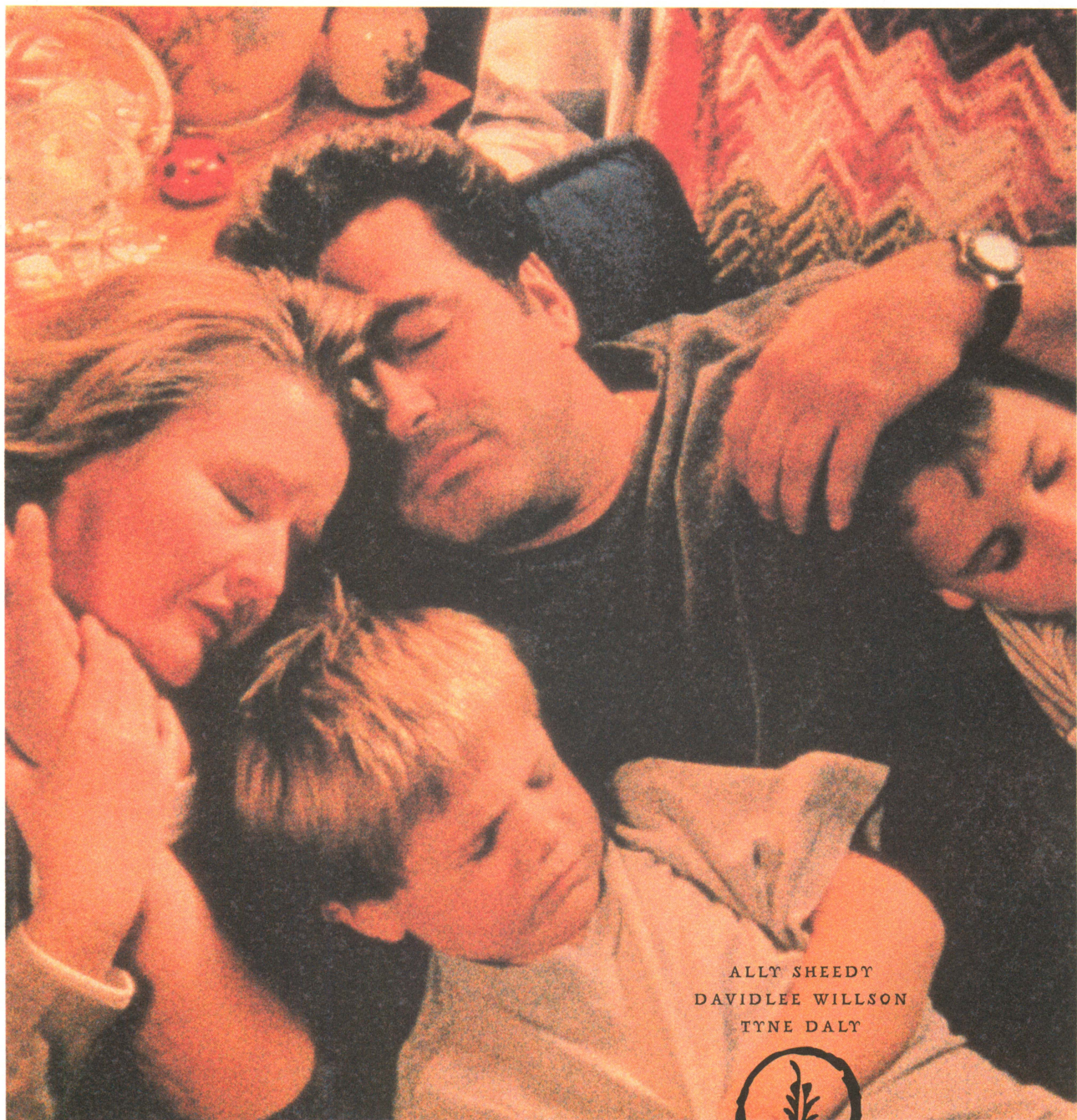


大嫌いで大好きなあなたへ

心のコリをとってくれたのも、

人生のトゲを抜いてくれたのも、

かけがえのない、あの人たちだった。







ALLY SHEEDY
DAVIDLEE WILLSON
TYNE DALY



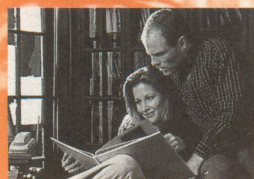
うちへ帰ろう

THE AUTUMN HEART

THE FILM CELLAR PRESENTS, IN ASSOCIATION WITH PARCO CO., LTD AND PIONEER LDC, INC. A FILM BY DAVIDLEE WILLSON & STEVEN MALER THE AUTUMN HEART ALLY SHEEDY DAVIDLEE WILLSON JACK DAVIDSON MARLA SUCHARETZ MARCELINE HUGOT LISA KELLER & TYNE DALY CASTING BY SUSAN WILLETT ORIGINAL MUSIC BY SHELKON MIROWITZ PRODUCTION DESIGNER SUSAN ZLEMAN ROGERS EDITED BY JOEL HIRSCH DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY JOHN LEUBA CO-PRODUCER TOD SCOTT BRODY EXECUTIVE PRODUCERS MARC CHABOT LISA MARIE SCHILLER LINE PRODUCER JERRI SHER PRODUCED BY KELLEY A. MCMAHON WRITTEN BY DAVIDLEE WILLSON DIRECTED BY STEVEN MALER    
出演◆アリー・シェディ/デヴィッド・リー・ウィルソン/タイン・ディリー/ジャック・デヴィッドソン/マール・スカレッツァ/マーセリン・ヒューゴー 監督◆スティーヴン・メイラー 脚本◆デヴィッド・リー・ウィルソン
フィルム・セラー制作 バルコ+バイオンアLDC製作 1998年/アメリカ/1時間49分/アメリカン・ビスタ/ドルビーSR/カラー 提供◆日本テレビ/バイオンアLDC/バルコ 配給◆バルコ ©The Autumn Heart 1998/Film Cellar



1999年サンダンス映画祭正式出品作品
99年サンダンス映画祭で、2000人の観客を
涙の渦に包み込んだ確かな才能の登場！



うちへ帰ろう

THE AUTUMN HEART

監督: スティーヴン・メイラー 脚本: デヴィッド・リー・ウィルソン 出演: アリー・シー・デイ(『セント・エルモス・ファイアー』『ハイアート』『ショートサーキット』『デヴィッド・リー・ウィルソン(『リーピング・ラスベガス』)/ジャック・デヴィッドソン(『摩天楼くニュー・ヨーク』はバラ色に)/マール・スカレッツァ(『大なる遺産』『フォレスト・ガンフ』一期一会) 1998年/アメリカ/カラー/1時間49分/アメリカン・ビスタ(1:1.85)/ドルビー-SR/原題: The Autumn Heart/99年サンダンス映画祭正式出品作品 提供: 日本テレビ/バイオニアLDC/バルコ 配給: 日本テレビ/バルコ

観た後に心の芯まで温まる映画。

そして自分の中の一番キレイな気持ちが溢れ出す、
やさしい感動作

雑踏の中、不意にこぼれる涙——。
大勢の人に囲まれているのに、
なぜか寂しい。
同じ時間、同じ車両の通勤電車。
流れる窓の風景が、今日に限って
ふとあの町に見える。
そうだ、うちへ帰ろう——
私にはあの人たちがいる。

最近泣いた映画はなんですか？ 切ないラブ・ストーリー？ それとも歴史の真実に迫るツール・ストーリー？ その感動は確かに素晴らしいけれど、あまりにも自分の人生とかけ離れていて、一晩眠ればいつもの日常の中流した涙も埋もれてしまいませんか？ そんなお仕着せの物語に疲れたあなたに贈る映画、それが「うちへ帰ろう」。これは、自分のために思い切り泣いて、怒って、笑える映画。なぜなら、普遍的な家族の日常と、突然起こる「一大事」を追いかけるうちに、誰もがスクリーンの中に自分を、それも「懐かしい自分」を見つけてしまうから。
エンド・クレジットが流れる時、胸の奥の奥があったかい。そしてこの“あったかさ”を大切な人と分けあいたい。

最近、大声で怒鳴り合うほどの喧嘩をしましたか？ 友達や恋人との些細な行き違いはあっても、相手を失うことが怖くて、喉まで出かかった言葉を呑み込んでしまう。その一言が言えたなら、もつとわかりあえるかもしれないのに……。
気がついたら自分で薄めた人間関係の中で、波風立たないように気を張り詰めて疲れてる。悩んでいたのは、体のコリではなく、心のコリだった……。

主役の三人姉妹と弟、その父と母は感情を解放するこ

とを恐れない。相手の一言に傷つき、一言に慰められ、どんなにぶつかってもいつか許し合う。そして、そんな関係は家族にしかあり得ないことに気づいていく。家族って安心して憎み合える関係かもしれない。その向こうにきっと愛があるから。

観終わった時、離れていてもそばにいても、すぐに両親や兄弟と話したくなる。自分の中の一番キレイな気持ちが素直に溢れだす、そんな映画だ。

「そして20年が経ち、急に気づくのだ。
失われたもの、心の空白に……。これは僕の家族の物語だ」
1970年9月、三人の娘を持つアンとリーのトーマス夫妻に4人目の子ども、ダニエルが生まれた……その6年後、彼らは離婚した。父親は息子を、母親は3人の娘たちを引き取った。それから20年の歳月が流れた——。

ダニエルは恋人のリアとの結婚を間近に控え、幸せな日々を送っていた。ある日、両親が離婚して20年前に別れた3人の姉が訪ねてきた。幼いときに別れて以来、音信不通で顔すら覚えていない姉たちが突然現れ、とまどうダニエル。父親が事業で成功し、ダニエルはボストンのハイソな家庭に育ったハーバード大の大学院生。一方姉たちは、母親がスクールバスの運転手をしながら、女手ひとつで立派に育てた。その母がストレスのせいで倒れ、ダニエルに会いたがっていると言う……。20年ぶりに離れ離れになっていた家族が再会し、お互いの心のすきま、こころの傷を埋めてゆく間に、それぞれが家族の大切な何かに気づき始める……。
あなたの周りにもきっとあるハズの、「切っても切れない、家族の日常」が素直に描かれています。

(主演・脚本)デヴィッド・リー・ウィルソンからのメッセージ

母なる自然、父なる季節には4人の子どもたちがいます。冬、春、夏、そして最後の季節が秋——それは“リグレット<後悔>”の季節です。<後悔>という言葉はあまり前向きな意味では使われていませんが、私はそうは思いません。人は自分の過ちを後悔するからこそ、何かを学ぶのです。そして少しの運があれば、スタート地点へ戻って、やり直すこともできるのです。
——デヴィッド・リー・ウィルソン(脚本)1999年サンダンス映画祭にて

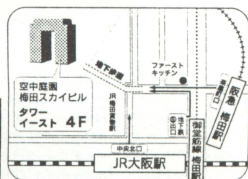
今秋、ほっこり感動のロードショー (上映スケジュールは劇場にお問合せ下さい)

前売鑑賞券 1,500円 (当日一般 1,800円) の処 好評発売中!

※劇場窓口、チケットぴあ、ローソンチケット、各プレイガイドにて発売中!

梅田スカイビルタワーイースト4F 06 (6440) 5977

梅田 ガーデンシネマ



http://www.cineplex.co.jp